

## 令和2年第1回当別町議会定例会 代表質問 答弁書

3月6日

質問者 会派緑風会 秋場 信一 議員

### 【町長答弁】

会派「緑風会」秋場議員の代表質問にお答えいたします。

はじめに、新しいまちの顔づくりにおけるJR新駅についてのご質問にお答えします。

既存の2駅を中心としたまちづくりに大きな影響はないのか、ということについてですが、新駅の設置が実現すると、率直に、影響があるものと思っております。

既存の2駅周辺の開発は、これまで議論してきたとおりに進めてまいりますし、特に、西当別地区においては、既にある太美駅と新駅は距離が近く、互いに駅周辺エリアが結びつき、より効果的なまちづくりに発展していくものと期待をしております。

秋場議員の「JR駅が新たにできることは素晴らしいことである」とのご発言を心強く受け止め、新駅設置の早期実現に向けて、進めてまいりたいと思います。

新駅周辺のまちづくりのコンセプトやターゲットについてですが、新駅設置の提案者・要望者である(株)ロイズコンフェクトが人を呼び寄せるためアミューズメント施設やテーマパークを新設することを契機に、新たな人の流れを生み出すことにつながるコンセプトやターゲットを研究していくことが必要であるものと認識しております。

なお、この度策定しました総合戦略の「新しいまちの顔づくりプロジェクト」の中でも触れておりますが、5Gをはじめとした情報環境の整備も併せて構築していきたいと考えております。

予算措置に伴う財政負担についてですが、会派「清新」山田議員の代表質問に対して答弁しましたとおり、町が負担すべき整備も当然、生じますので、新たな予算措置も必要になりますが、詳細な整備すべき事項は、現時点では明確になっておりませんので、具体的に見えてきたときには、これまでと同様、財政的な分析をしっかりと行ってまいります。

新駅構想に係る地域住民への説明の必要性についてですが、構想が具体化し、実現の目途が見えた時には、太美地区の住民に限らず、町全体の住民への説明は、必要に応じて適宜実施していくこととなります。

なお、太美駅のバリアフリー化についてですが、J R北海道によって令和2年度中に整備される予定は、変わっておりません。

新駅設置に対する町の支援、J R・民間・町の負担についてですが、本件は、一民間企業のプロジェクトではなく、町全体のプロジェクトの位置付けをしておりますので、繰り返しになりますが、当然、町の負担も発生してくるものと認識しております。

要望している新駅は請願駅となりますので、駅新設については要望者側の負担、設置後の運営管理費用については、J Rの負担が原則となっております。

新駅設置に関する乗降者数などの条件や、検討会議で見えてくる課題といった現時点の状況についてですが、新駅設置を満たすための乗降者数や、その他の条件にどのようなものがあるのかは、検討会議が始まったばかりであり、現時点では、まだ明確ではありません。

また、ダイヤへの影響については、多少生じる場所はあると思いますが、快速化への影響となるものではないと認識しております。

乗り越えるべきハードルはないのか、ということについてですが、今後の協議によりハードルとなる課題が明らかになってくるものと思いますが、これまでの打合せや検討会議等で感じていることは、双方のスピード感に齟齬があるということでもあります。

次に、当別小学校の跡利用についてのご質問ですが、当別小学校敷地及びその周辺については、様々な活用が考えられます。川が流れ、草木が茂り、古くからのたたずまいが残る、当別の歴史を感じられる空間として、大変価値のあるエリアだと考えているところです。

会派「清新」山田議員の代表質問に対して答弁しましたとおり、当別小学校の活用は、役場庁舎更新における、ひとつの選択肢として捉え、比較検討を行ってまいります。

また、町民の合意形成につきましては、立地適正化計画により、国などの各種支援制度の活用による財源確保が可能となりますし、民間資金を活用するPPP／PFIの導入も考慮し、広く町内外から知見やアイデアを集めながら、小学校敷地、中心市街地及び駅周辺を含む都市機能誘導区域の面的整備について具体化していく考えであります。

次に、「子育て世代向け町営住宅」に関する質問ですが、はじめに、土地を4棟分、購入する理由ですが、残りの3棟についても、今後、順次、改修工事を

進める計画でありますので、4棟分の土地購入費を予算に計上しております。

現在の教職員住宅の敷地は、借地料を支払っておりますが、今後も長期にわたって借地料を支払うよりは、土地を購入した方が、総合的な費用の面からも有利であると判断いたしました。

また、「今後、他の同様のケースの考え方」についてですが、それぞれの事案で、状況や条件が異なりますので、経済性等を総合的に考慮し、個別に判断することになります。

次に、「民間業者の圧迫にならぬよう調整が必要ではないか？」とのご質問ですが、町内の居住施設が不足する中、これまでも民間事業者に、住宅建設の要望をしまいましたが、なかなか実現には至りませんでした。

むしろ町が、この住宅を整備することで、民間の参入を促す先駆けになるものと期待し、踏み切った次第です。

今後も民間事業者の参入が見込まれない場合、町が「子育て世代向け町営住宅」の新築を考えてまいります。

以上、会派「緑風会」秋場議員の代表質問に対する答弁といたします。

### 【教育長答弁】

会派「緑風会」秋場議員の代表質問にお答えいたします。

当別高校の今後のあり方について「何らかのインセンティブ」をとのご質問ですが、会派 爽新 古谷議員の代表質問にお答えしたとおり、生徒に選ばれる高校になることが優先すべきことと考えます。

参考までに、現在のところ当別高校は、北海道医療大学から看護福祉学部の指定校推薦枠を1枠いただいております。

これは、一定程度の成績があれば、面接試験のみで入学できる制度であり、生徒にとっては大いにメリットのある制度です。

今後、大学進学や就職への支援については、高校とともに大学と協議しながら、進めていく考えです。

以上、会派「緑風会」秋場議員の代表質問に対する答弁といたします。